

異なる素材による足音の違いを知覚できる体験を実現する

Group C

鹿島 志瑠 白井 航 漆山 宏睦 前田 悠之介

背景・企画説明

普段意識して聞くことがない日常にあふれる足音に対して、新たな発見や気づきをもたらすことを目的とした環境作りを行った。企画としては、遮音・防音された空間内で体験者の動きに合わせたインタラクティブな足音の展示をするという内容である。構造に関しては、先行文献を参考に圧迫感を感じないような空間設計(1.6m×1.6m×1.6m)をつくった。体験者にはこの空間内で「足踏みをしてもらうことで足音が出る」というシステムと体験者の相互作用ができる足音の知覚を深めてもらいたい。

システム概要

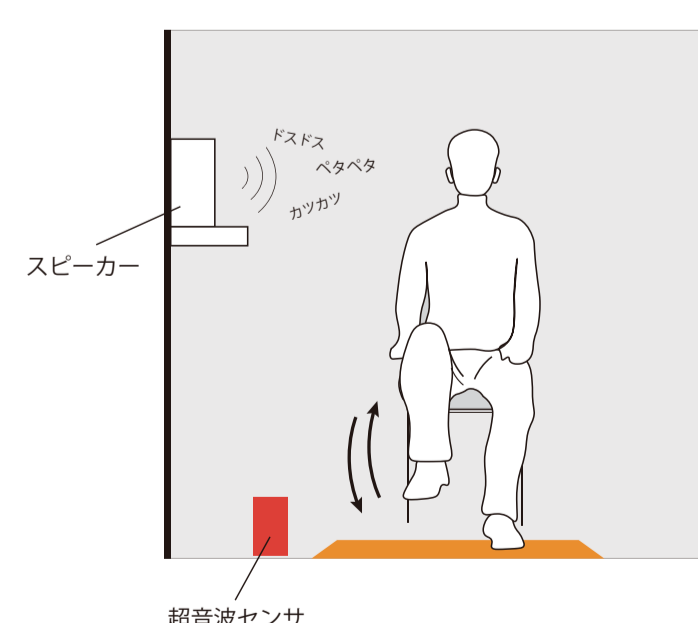
体験者が足踏みをすることでシステムはその動作に合わせて、足音がスピーカーから出るような仕組みである。足踏みの検知には、超音波センサ(HC-SR04)を用いている。さらに足音だけではなく、流れている音の素材や場所などの情報を映像で映し出すことで体験者の体験をサポートしている。

スケジュール

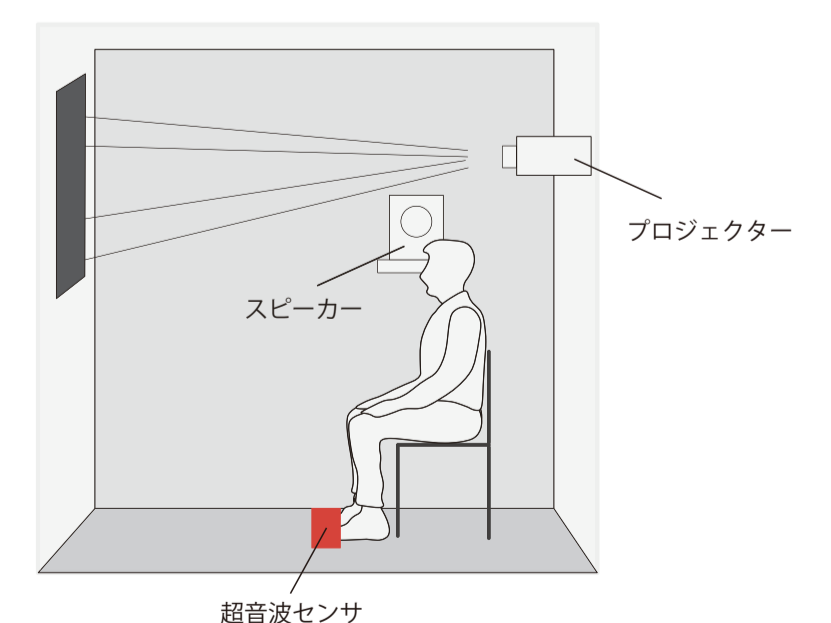
- 5月 プロジェクト始動
テーマ「足音」に決定
- 6月 展示方法「立体音響」に決定
- 7月 中間発表
- 9月 展示方法の再検討
- 10月 展示方法の変更と設計
- 11月 2チームに分かれて作業開始
(システムとプロトタイプ制作)
- 12月 成果物完成

体験の方法

- ① 体験者が個室空間内の椅子に座り、足踏みを
する
- ② センサが体験者の足踏みを検知する
- ③ システムが足踏みに合わせて、足音を流す。
さらにその対応した足音に対応した環境の情報を
映像で出力する



イメージ1：正面から見た図



イメージ2：横から見た図